



J-Eurus IR

Nikkei Asia IR セミナー

海外投資家のニーズに応える ～株式市場で選ばれる企業になるには～

2024年7月4日

ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社 岩田宜子

ご参考：

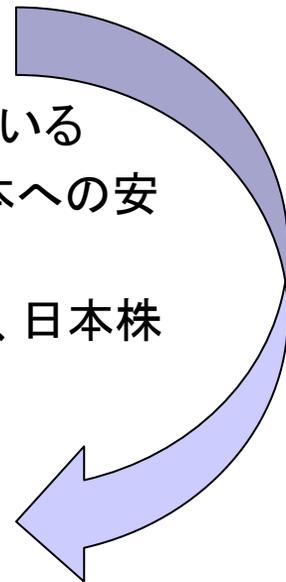
<http://www.j-eurusir.com> (J-Eurusウェブサイト)

ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社

① 日英同時開示のインパクトについて ～日本株式市場の活況と現状について～

- ◆ 3月4日、日経平均は40,000円を初めて超えた
 - ◆ しかしながら、これは、金利・為替を注目する投資家による売買が中心であり、大型銘柄や特定セクター以外に、個別銘柄発掘までには至っていない
 - ◆ この動きは、証券会社主導で、行われたものの息切れか・・・
-
- ✓ 日本企業によるコーポレートガバナンス、ROE 等への意識変化が進んでいる
 - ✓ 日本の文化的な成熟が他のアジア諸国より高いということで、改めて日本への安心、信頼が生まれている
 - ✓ このような背景で、サステナビリティの視点も加えて、欧米の年金基金が、日本株投資に戻りつつある

- ◎ 個別銘柄発掘相場に備える
- ◎ 競争相手は、グローバル企業と認識すること



これまで、また現在、日本企業が直面している四つの課題

①陳腐な経営・戦略への失望

日本企業はイノベーション力がない、経営トップは「無能」というのが世界の定説になっていた？！

②英文の同時開示がない、そもそも企業名を知られていない

まずはAIで、問題は、中身

気をつけて！経営トップの3タイプ：投資家に対して、
「怖がる」、「敬遠する」、あるいは「媚びる」

- ◆ アクティビストとアクティブ運用の区別など意味がない
- ◆ 投資家を、「あいつら」、「輩(やから)」、「面倒なやつら」

IRにおいてもイノベーション力が求められている

③株式市場の声が届かない

証券会社の有力顧客の声しか
企業に届かない
依然、企業に残る株式市場への嫌悪

④IRと取締役会

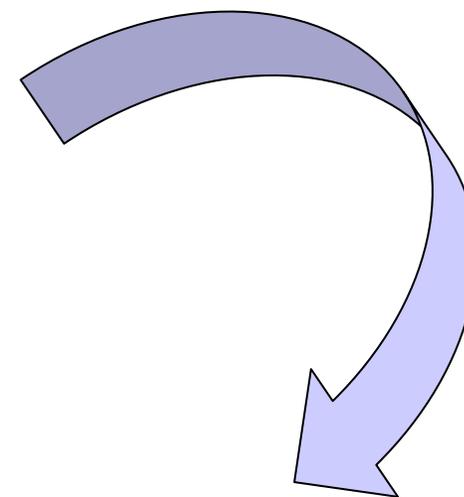
IR下手、アクティビストの活発化、
取締役会・ガバナンスへの理解の浅さ
エンゲージメント

② 経営において、IRの役割 ～機関投資家の見方～

- 投資家(機関投資家株主)は、以下のように企業をみています
 - ✓ 利益をどのようにあげていくか
 - ✓ そのためのリスクを経営はどう対処しているか
 - ✓ 従業員の幸せ度、サプライチェーンにおける人権
 - ✓ 気候変動への対処

特に、海外投資家は、

- ✓ そもそも貴社は、どのようなことを目指しているのか
- ✓ これからの社会、地球にどう貢献しているのか
- ✓ そこへの思い入れはどのくらいあるのか
- ✓ それへのリスクをどう認識しているか



この議論がエンゲージメント、経営における「気づき」、投資家による関心度アップへ

③ では、どうしたらよいのか

コーポレートガバナンス報告書から

特に実効性評価箇所の分析（商事法務にて過去に掲載の複数の岩田執筆レポートより）

	Aグループ平均			Bグループ平均		
	2023年	2021年	2017年	2023年	2021年	2017年
外国人持株比率	38.4%	36.7%	33.7%	21.7%	15.2%	12.6%
ROE（過去3年）	10.7%	9.9%	9.8%	6.4%	5.7%	6.7%
社外取締役の比率	48.2%	45.6%	42.3%	43.4%	32.9%	24.4%
取締役会議長が社外取締役の割合	20.0%	25.0%	-	10.4%	2.4%	-
ガバナンス報告書の文字数の平均	1983.7	1573.4	574.0	1214.0	463.6	341.0

2017年調査対象企業：JPX日経400企業

2021年調査対象企業：取締役会評価を実施していることが確認できた企業（Aグループ31社、Bグループ120社）

2023年調査対象企業：日経225企業（Aグループ110社、Bグループ115社）

Aグループ：外国人持株比率が30%以上の企業・IRの分野でアワードを過去5年でとった企業

Bグループ：上記以外の企業

IRの実施状況と各指標の関係

2023年度調査 対象 日経225企業

	補充原則 4-11-3 文字数	IR説明会 実施状況 (6点満点)	取締役会評価 実施状況 (5点満点)	独立取締役 比率	女性取締役 比率	外国人 持株比率	ROE	3年平均 ROE
IR実施状況 4点～6点 170社	1728.22	4.92	2.46	46.78	17.29	29.85	9.64	8.99
IR実施状況 1点～3点 55社	1163.82	2.33	2.13	42.50	13.65	29.85	5.92	7.13
225社平均	1590.26	4.28	2.38	45.74	16.40	29.85	8.73	8.54

IR実施状況:CG報告書の中で、①海外投資家向けに定期的説明会を開催 ②アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催 ③個人投資家向けに定期的説明会を開催について、それぞれ行っている場合1点、代表者自身による説明の有無で代表者が説明を行っている場合それぞれ1点を付加、計6点満点で評価

取締役会評価実施状況:CG報告書4-11-3の記載を分析、①評価の実施の有無 ②第三者によるインタビューの実施の有無 ③委員会の評価の有無 ④サステナビリティに関する言及の有無 ⑤人材関連の事項に関する言及の有無、計5点満点で評価

海外IRの実施と各指標の関係

貴社は、どの位置にいらっしゃるでしょうか。

2023年度調査 対象 日経225企業

	補充原則 4-11-3 文字数	IR説明会 実施状況 (6点満点)	取締役会評価 実施状況 (5点満点)	独立取締役 比率	女性取締役 比率	外国人 持株比率	ROE	3年平均 ROE
海外IRに代表自身が参加している 158社	1766.91	4.98	2.45	47.26	17.57	29.89	9.58	8.92
海外IRを行っている 14社	1321.36	3.57	2.36	42.97	13.06	26.80	10.52	8.96
海外IRを実施していない 53社	1134.68	2.40	2.19	41.92	13.82	30.53	5.73	7.30
225社平均	1590.26	4.28	2.38	45.74	16.40	29.85	8.73	8.54

では、どうしたらよいか。

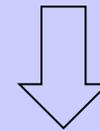
1. 経営・取締役会と、IRに関して、戦略を立てる～どのような投資家に株主になってもらいたいのか、社内外の情報フローの確立
2. 決算説明会の開催方法
3. 海外IRの展開について（7ページ）
4. 個別銘柄発掘相場へ備える（英語音声版ファクトシートの作成（8ページ））

海外IR展開について

1. 検証(過去の海外IR振り返り)
2. ターゲティング投資家の決定
3. 伝えるメッセージの決定
4. ミーティング形式の決定(直接訪問かリモートか)
5. コンタクト
6. アポ入れの状況の確認
 - ✓ アポが入ったところ: 関心事項の確認
 - ✓ アポが入らなかったところ: その理由の確認
7. 準備 ロジスティックなど
8. 面談当日
9. 直後のフォローアップ(事後ヒアリング)
10. 今後のアクションの決定

ポイント 1

海外IR「一大イベント」から



「カジュアル化」、
「日常化」へ

ポイント 2

お気づきになりましたか

個別銘柄発掘相場へ備える

～英語音声版ファクトシートの作成～

■ 趣旨

日本株に注目が集まるなか、機関投資家は現状の日本株全体に注目するという視点から、今後は個別銘柄発掘という視点に移行すると想定。そこで「選ばれる企業」となるために、経営トップによる英語での情報発信を能動的に実施し、グローバルの投資家に向けて自らアピールすることをご提案するものです。

■ 提案

- グローバルの投資家に向けた貴社メッセージを経営トップが英語で発信
- 経営トップのメッセージを動画撮影
- 動画を貴社ホームページ(IRページ)に掲載
- 弊社にて保有しているグローバルの機関投資家データベース(ファクトシート配信先)を活用し、英語音声版ファクトシートとして配信

■ 動画について

- スピーチは1メッセージ=3～5分程度を想定
(なお、動画の撮影・製作は弊社ではおこなっておりません)

今、

④ コミュニケーションで最も大切なもの、気を付けることとは

- とにかく、見つけてもらえる企業になること
- 投資家との関係は、Win-Win
- IRと取締役会との関係の強化
- IRの人材は、コミュニケーション能力と経営を理解できる力

本日はありがとうございました。皆様のIR活動に、少しでも、お役にたちますように。